

キャラクター名  
サオトメ=バージニア

プレイヤー名

シンドローム	オルクス		ワークス	エグゼクティブ	カヴァー	高校生
	オルクス					
オプション			年齢	18	性別	女性
覚醒	死	衝動	妄想	初期侵食率	32	%
出自	待ち望まれた子	経験	トラウマ	邂逅	いい人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	0	1			1	行動値	13
感覚	2	0	2			4	(非装備時)	13
精神	2	0	0			2	戦闘移動	18
社会	4	1	0			5	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	5	
運転：二輪	2		芸術：			知識：学問	2		情報：ウェブ	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ：UGN幹部	
コネ：噂好きの友人	
コネ：手配師	
コネ：情報収集チーム	
インクリボン	

合計装甲： 0    合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
D：特権階級	P	N		
父：フレドリック=サオトメ	P 尊敬	N 嫌気		
母：早乙女みどり	P 幸福感	N 隔意		
シナリオ：朱麗華弥	P 友情	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 20    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
妖精の手	4	4	Au					
効果：	ダイス目1つを1.0に。判定1、シナリオLv							
要の陣形	3	4	MeSy					
効果：	対象を3体に。シナリオLv							
導きの華	5	3	MeR交					
効果：	達成値+[Lv*2]							
天使の階梯	5	5	Me交渉				80↑	
効果：	達成値+[Lv*2]、C-1(下限6)							
スピードアップ	3	(+0)	常時					
効果：	行動値+3							
仕組まれた幸運	★		Me					
効果：	ごく限られた幸運を引き寄せる							
猫の道	★		Me					
効果：	誰も知らない近道を通れる							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

現在急速に収益を伸ばしている新進気鋭の重工企業『ムラクモ工業』の社長令嬢であり次期社長。その手腕は大手企業の社長もなるほどと言われ、現在すでに少しずつ業務の引継ぎが行われているとか。ゲーム、特にFPSが好きだが実力はそこまでではないらしい。アメリカ人の父と日本人の母の間に生まれたハーフであり、サオトメは母の名字である"早乙女"から来ている。しかしバージニアという名前は"乙女(バージン)"に由来するものであり、乙女がかぶっていて不満であるとは本人の弁である。本人はいたって快活な性格であり、その人柄にひかれるという社員も少なくない。その人柄と反対に学力はそこまで高くはなく、クラスメイトにカバーしてもらっているのが実情である。その意味で、朱麗華弥にはよく宿題を見せてもらったりよくカラオケに行ったりする仲である。自分の立場に遠慮しない人間は非常にまれなので、金で買えない彼女の信頼を大事にしたいと思っている。ムラクモ工業はレネゲイド技術にも縁が深い企業であり、彼女自身モイリーガルとして資金援助等を行っている。時に自分自身が戦場に出ることもあるが、立場のこともあるため後方で指揮にあたることが多い。まるで視界を阻む草を薙ぎ払うようなその快活な指揮から、自身の所属企業の名を冠して"ムラクモ"と呼ばれている。

-----

彼女の人生には2つの闇がある。一つは"ムラクモ工業の次期社長の座を巡った争い"である。ムラクモ工業の現社長、フレドリック=サオトメ(旧姓名フレドリック=マルチネス)は自らの後任の育成を早期に行うことを考えていた。そこで自分の仕事を間近に見てきた愛娘であるバージニアに白羽の矢を立てたわけだが、それをよく思わない者がいた。次期社長の席に座りたいと画策する役員諸君である。役員は、あのような小娘に念願をつぎされてなるものかとさまざま"妨害工作"を行った。悪評を流したり、嫌がらせを組織単位で行ったり。さまざまに行われたが、最も被害が大きかったのは『バージニアの暗殺計画』である。なにして、これによりバージニアは役員の開いたパーティーの席で実際に毒入りのスープを飲み、毒殺された。その後オーヴァードとして覚醒したため事なきを得たが、以降しばらくは快活な彼女でさえ人間不信が続いたほどである。